

2010年度北海道精神保健福祉士協会全道大会 2010. 4. 25
北翔大学北方圏学術情報センター「ポルト」1階 ポルトホール

精神保健福祉士援助実習検討委員会報告

北海道精神保健福祉士協会

精神保健福祉士援助実習検討委員会

林 浩幸、井上めぐみ、今井博康、佐々木寛、高志博明、
橋本達志、福澤健一、星 伸子、細田美保、三浦一恵

経過

- 平成10年4月 「精神保健福祉士法」成立
→精神保健福祉援助実習必須化
- 日本社会事業学校連名・(社)日本社会福祉士養成校協会社会福祉援助技術現場実習北海道ブロック研究協議会連絡会議(社養協北海道ブロック)に当協会も参加
- 平成15年度、当協会調査研究部にて「精神保健福祉援助実習の受け入れに関するアンケート調査」実施
→支部として取り組むべき課題を明確にした。

アンケート調査結果（抜粋）

- 回答106機関中、約半数の57機関が実習を受け入れている。
- 受け入れていない49件が、将来受け入れるための条件としては、「実習指導の知識・技術の向上」、「スーパービジョンの能力の向上」を上げている。
- 受け入れている機関でも、7割の機関が「スーパービジョンの知識・技術不足」を課題としていた。

精神保健福祉援助実習の手引き

2005(平成17)年7月に当協会の中に精神保健福祉援助実習検討委員会を設置し、「現任の精神保健福祉士、誰もが、具体的に指導でき、積極的に参画できるために、具体的な手引きを作成する必要があると考え」、精神保健福祉援助実習の手引きの作成に着手した。

2008(平成20)年12月、3年間の議論を経て「精神保健福祉援助実習指導の手引き～将来私達の仲間となっていく人に伝えたいこと～」が完成した。

援助実習指導者研修会

2009(平成21)年2月、手引きを援用した第1回目の精神保健福祉援助実習指導者研修会を企画し開催した。

手引きの内容をより実践場面に照らして伝えることで「実習指導の知識・技術の向上」、「スーパービジョンの能力の向上」につながれればと考えた。

精神保健福祉士援助実習指導者研修の概要

第1回 第2回

1. プログラム

- 9:30ー 9:50 受付
- 9:50ー10:00 開会・オリエンテーション
- 10:00ー10:30 講義1 実習指導の目的とスーパーバイザーの姿勢
- 10:35ー11:15 講義2 精養協から情報提供
- 11:20ー12:20 講義3 実習指導の内容
- 12:20ー13:20 休憩
- 13:20ー14:10 講義4 スーパービジョンの実際
- 14:20ー15:55 グループディスカッション「実習指導での課題」
全体報告・まとめ
- 15:55ー16:00 閉会

2. 参加者

第1回 41名 第2回 33名

3. 共催

北海道精神保健福祉士協会 資格・実習部及び実習検討委員会
(社)日本精神保健福祉士養成校協会北海道ブロック

講義内容の紹介(抜粋)

1. 講義3 実習指導の内容

- (1) 実習計画の確認～実習生の実習課題をより明確にさせるための面接場面のロールプレイ
- (2) 実習プログラムの実施とスーパービジョンの実際～スーパービジョン場面のロールプレイ

2. グループディスカッション「実習指導での課題」

PSW経験年数と、実習指導経験あり・なしを条件として、均等に振り分けられたグループ構成とし、実習生を受け入れる前段での課題や、実習指導を実施する中で、課題として感じていることを発言してもらい、対応策を検討する。

開催結果

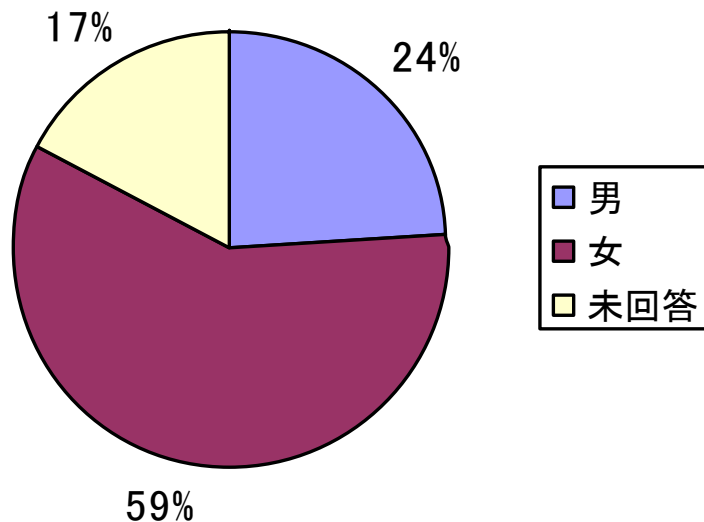
第1回では、参加者41名に対して研修の中でグループディスカッションを実施したところ、実習生を受け入れる以前、また受け入れた後においても、精神保健福祉援助実習指導に取り組む上で、数多くの課題が存在していることが新たに判明した。

→実習指導での課題に関するQ&A集

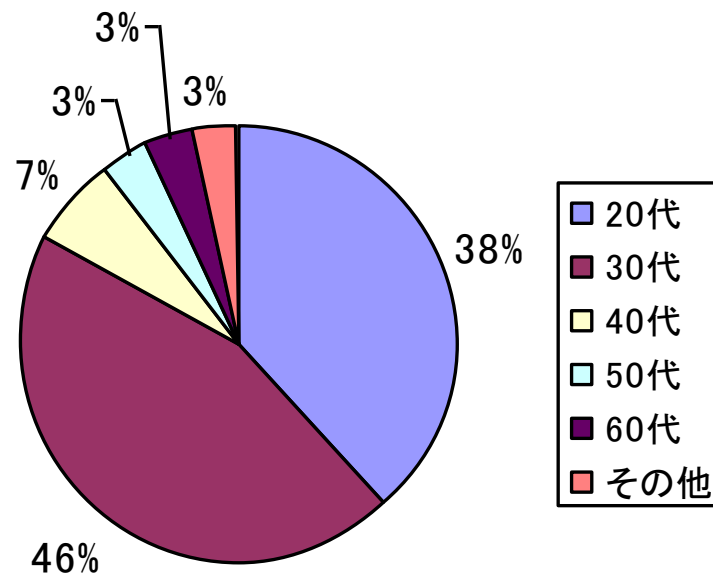
2010(平成22)年2月、第2回「精神保健福祉援助実習指導者研修」を開催し、参加申込時と研修終了後にアンケート調査を行い精神保健福祉援助実習指導における受け入れ側の課題等を集約した。

第2回精神保健福祉士援助実習指導者研修 参加者アンケート集計結果 (参加者33名中 29名回答)

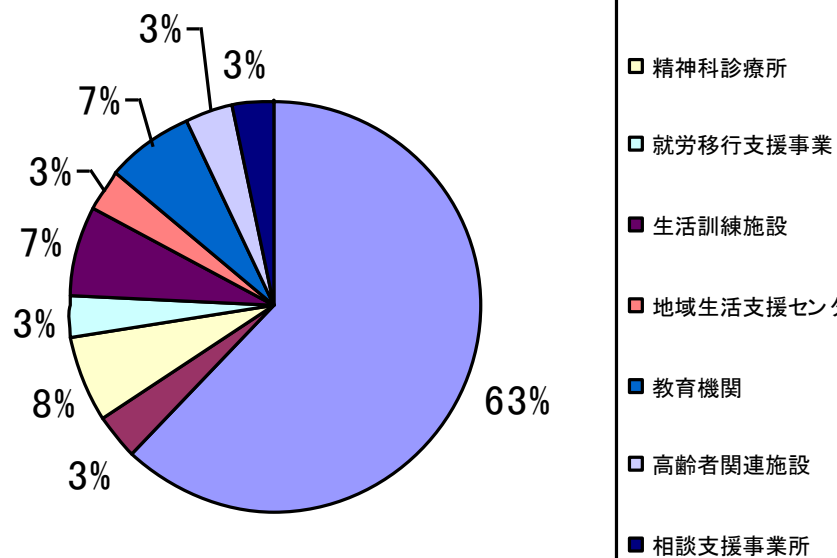
【性別】



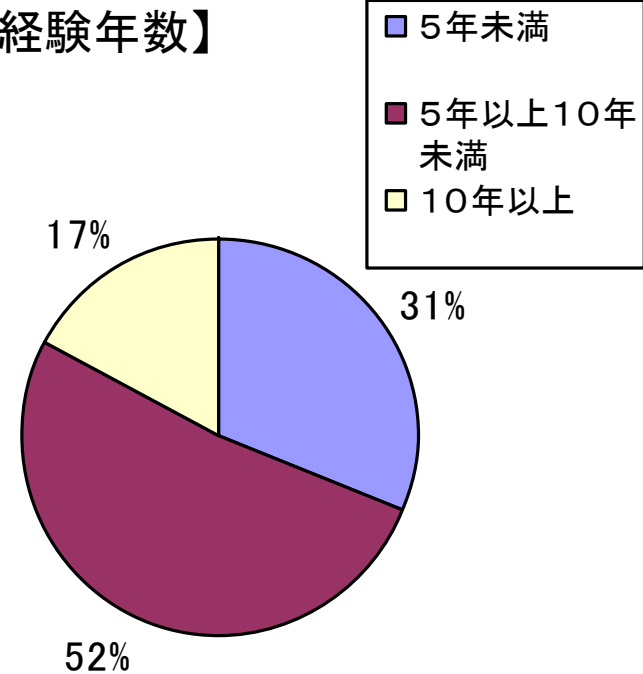
【年齢】



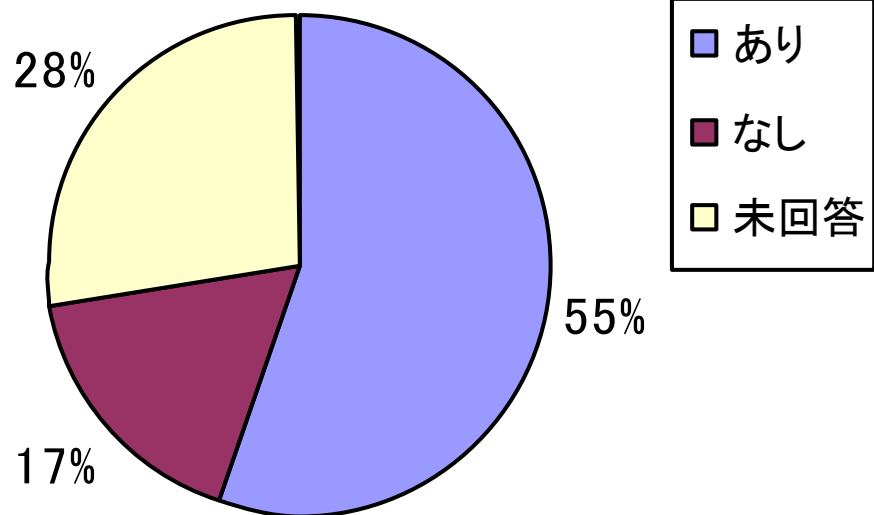
【所属施設】



【PSW経験年数】



【実習指導経験】



実習指導者の課題

1. スーパービジョンの知識・技術不足

- ・実習目標をもとにプログラムを組むが「目標を意識したスーパービジョンの方法」は教わってきてない。「日誌のコメントの仕方」、できるだけ実習目標を意識しているが、いつも悩む。
- ・年齢が近いため、共感する部分が大半を占め、それ以外のポイントを伝えられているか疑問。
- ・学生さんの課題設定、それに伴う実習が伴っていけない。指導者の思いが場合によっては先行してしまう感じをもっている
- ・実習生が何を学びたいと考えているのかを正確に把握すること。その上で何を持って帰ってもらうのかをアレンジしながら指導したり計画を創っていく事。
- ・バイザーが期待する到達目標と実習生の個別の能力による到達度のズレを調整していくことの難しさ。

- ・実習生自身の抱える問題や課題について、どこまで関わり、ふみこむべきか迷うことがある。
- ・実習生に伝えなければならないことを整理すること。
- ・「広く」業務を理解してもらうことと「深く」関わることの(事例検討を含め)の時間的バランスの持ち方。
- ・実習目標にできる限り沿った形で実習が行えるように計画を立てていくこと。また、関わりにおいては先に説明や考えを伝えすぎてしまわず実習生の思いを聞き、体験を通して学べるようにしたい。
- ・指導する姿勢、何を伝えるか、どこまで伝えるか、どのような関係性を取れば良いのか(厳しくする、親密になる、緊張感がある・ない等)。
- ・スーパービジョンの力がない。
- ・現場の大変さを実際見てもらう中で、PSWとしての意欲を高めていくことができるような実習指導。

2. PSWとしての経験・知識不足

- ・自分が日常でしている仕事や考えていること、なっていきたい像の整理。
- ・職場の環境や自分自身の資質で実習生が望む実習を提供できるか。
そもそも自分の業務の姿勢・理念が理論・倫理に本当に基づくものとなっているか。
- ・自分の経験不足。経験してきたことの活かし方の知識不足。

3. 現場の受け入れ態勢の不備

- ・病院の他職種の理解を得ることがなかなか難しい。また、指導者自身の振り返る時間・機会がないのも苦しい。
- ・自分自身の指導や関わり、実習生の変化などはどうだったかについての振り返りを行う時間がないこと(時間・機会も含めて)。

4. スーパービジョンの時間をとれない

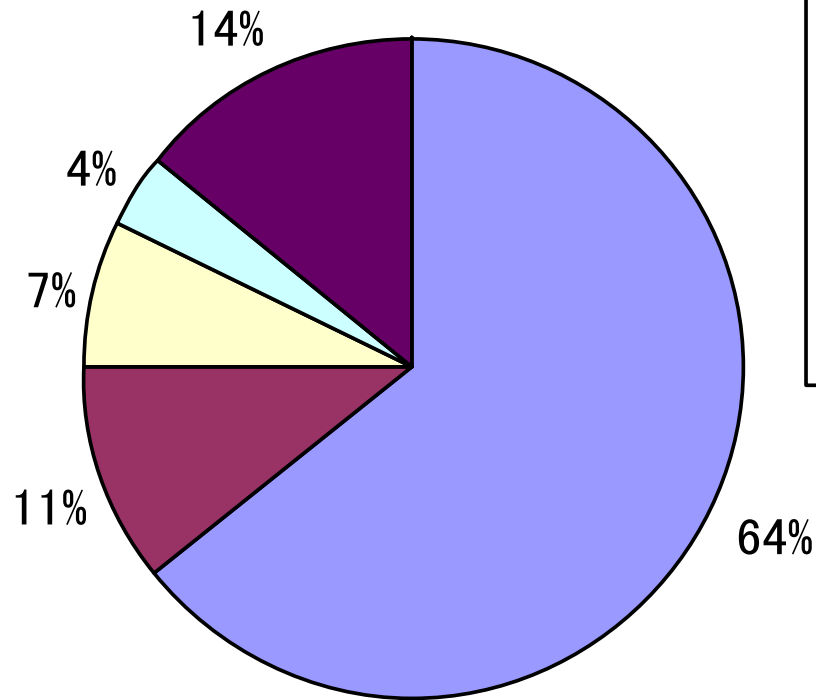
- ・日々の業務に流され、約束していた16:00から1時間の「1日の振り返り時間」がとれないことがある。

5. その他

- ・事前学習のばらつき。
- ・①実習の事前学習の段階で現場のイメージを膨らませることが簡単にはいかないこと、②関連した制度が現場で具体的にどのように生かされているのか、実習前に理解させることが簡単ではないこと。
- ・特に通信制の短期の実習の場合は課題に取り組むという意識が低く、日程を無難にこなすだけで終わろうとしてしまう。指導の観点をつかみづらい。
- ・学生の主体性を養うこと。大学もしくはP協会が実習指導や実習に期待しているものはなにか（現場で働き始める前に何を習得し、どのような意識を育てておくべきか）。

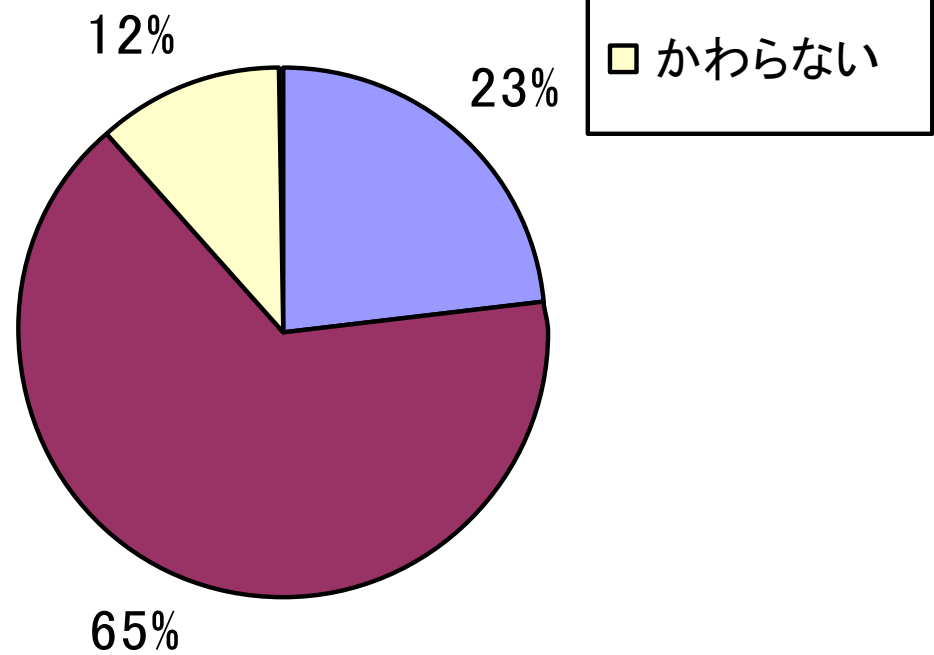
実習指導者の課題

【実習指導者の課題】



- 1. スーパーバイザーの知識・技術不足
- 2. PSWとしての経験・知識不足
- 3. 現場の受け入れ態勢の不備
- 4. スーパービジョンの時間をとれない
- 5. その他

【参加申込時の課題は】



今後、本研修に盛り込んでほしい講義内容

- ①スーパービジョンのグループワーク
- ②ロールプレイ(ベテランのデモンストレーション)
- ③グループディスカッション
- ④「評価」について
- ⑤実習生の声を聞く(新人PSWでもよいかも)
- ⑥参加者が困難事例を持ち寄り事例検討
- ⑦養成校とスーパーバイザーでのシンポジウム
- ⑧スーパーバイザーから実習指導の実践報告

考察

- 実習指導経験ありの参加者が6割ということで、実際に指導を行う中で、研修の必要性を実感していると考えられる。
- 実習指導者の課題としては、1. スーパービジョンの知識・技術不足が6割を占めていることから、より実践的な研修を望んでいると思われる。今後に望む講義内容としても、ロールプレイ、評価の仕方、困難事例の検討、実践報告などが上がっていた。
- また、振り返りや情報交換の機会として、グループディスカッションを望む声が多いことや、参加申込時に課題と考えていたことが解決したが2割、少し解決したが6割強であったことから継続的に開催し、より多くの会員に研修の機会を提供する必要があると考える。

まとめ

昨年度、日本協会においても精神保健福祉援助実習における「認定実習指導者養成」モデル研修が開催された。精神保健福祉士養成カリキュラムの改正案が示されたことに伴い（実習時間の増加、医療機関とその他の2領域の実習の必須化、90時間以上の医療機関実習の必須化・具体的実習内容の基準の明示、実習指導者要件として認定研修受講の規定等）、全国レベルでの認定研修として普遍化し、その研修事業を職能団体として日本協会が受託したいと考えているものである。

先月3月29日付けで、「精神保健福祉士養成課程における教育内容等の見直しについて」公表され、24年4月1日施行されることになった。

今後、当協会としては、日本協会の研修内容と重複しない形での研修開催も視野に入れ、テーマを絞り込んだ「日誌の取り扱い」、「評価について考える」など、また、フォローアップ研修として「実習指導内容を振り返るグループディスカッション」、「実践報告・事例検討会」などの開催を検討して行きたいと考える。

実習指導での課題に関するQ&A集 5月下旬発行予定

精神保健福祉援助実習指導の手引き

～将来私達の仲間となっていく人に伝えたいこと～

『実習指導での課題に関するQ&A集』



会員の皆様には協会ホームページより
ダウンロードしていただきます。

北海道精神保健福祉士協会

援助実習検討委員会

3. 困難事例

Q 7

実習課題について、常識では考えられない書き方をしてくる実習生がいますが、その事をどのように伝えと、本人が理解してくれるのか迷ってしまいます。

A 7

常識では考えられない書き方とは、具体的にはどのような書き方をいうのでしょうか。日誌に関していえば日記のようだという現場からの指摘はしばしば耳にします。常識では考えられない課題なのか、書き方なのか、もう少し詳しく知りたいところです。仮に設定課題が専門職養成における「常識」から逸しており、利用者の疾患部分にばかり注目する内容であれば、即座に実習生と「精神保健福祉士の視点」についてディスカッションを行う必要があるでしょう。もし「PSWの仕事について見てみたい」など、抽象度の高い課題設定であれば、可能な限り具体化する取り組みを行う必要があります。それ以前の問題、殴り書きで誤字や平

がなで綴られた、読むに耐えない文章ということであれば、養成校教員
よ、課題の具体化について確認していく必要があります。課題を示す前に「実習事前法を学生に教えています。が目を通し、達成可能な具
体的な課題であるかをチェックしています。したがって指導者側が不適切な課題設定であると判断した場合は、学生・養成校教員との連携の中で修正をしていくことが大切であると思われます。マナーや社会的ルールに関する事柄について疑問が生じた場合も、学生だけでなく養成校側から伝えてもらうことが必要かと思います。